

まるんなひろば支援プログラム

作成日 2025年3月21日

法人（事業所）理念

- ・みんなで力を合わせて、「人として大切にされ、その人らしい暮らしを実現する」事業に取り組んでいく。
- ・誰もがその人らしく生きるために、大切な子ども時代に培う育ちを『子どもの願い』を中心にして支援する。

支援方針

- ・
- ・子どもたちの『～したい』『やってみたい』という心のめばえを引き出す関りを大切にしていく。
- ・遊びや生活の中で、仲間とともに育ちあう場であることをめざす。
- ・家族が子育ての心配などの思いを出せたり、子どもの発達について共通理解を深め、安心できる場になることをめざす。
- ・子どもと家族が地域で安心して暮らしていけるように保育所、幼稚園、教育機関、児童福祉センター、保健福祉センター、医療機関と連携し、地域のネットワーク作りをめざす。

開所時間 9時から17時（月曜日から金曜日）

送迎実施の有無 なし

支援内容

○本人支援

【健康・生活】

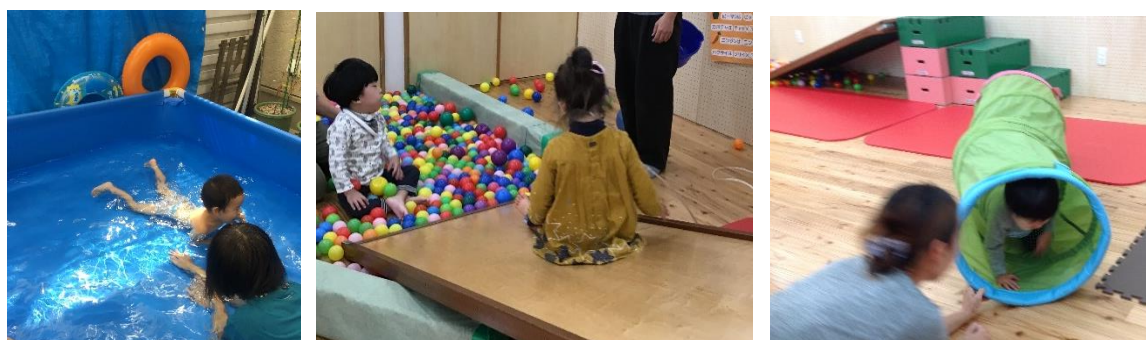
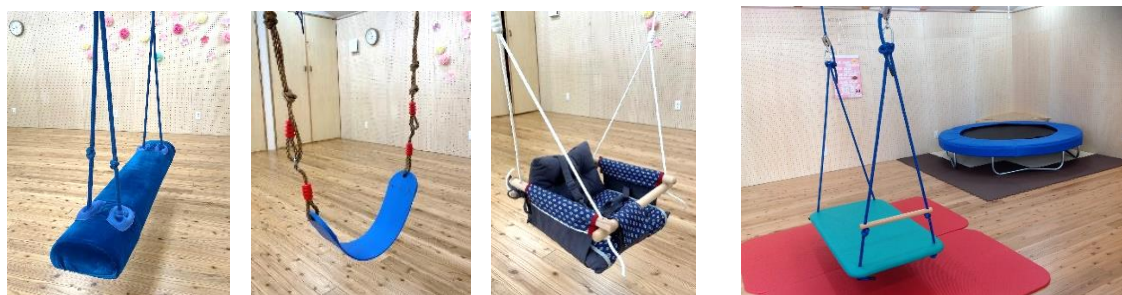
- ・発達段階に留意しながら手洗い、排泄、着替えなどの日常生活動作について一人一人に合わせて支援する。
- ・登園時に健康状態を把握するとともに、必要に応じて医療機関や訓練先等の関係機関と連携を行う。
- ・自分のことを自分でしたいという気持ちが育つことで、自分自身に対する手応えを感じ、自我を形成していく。
- ・同じ流れを繰り返したり、ひとりひとりの子どもに合わせて次の活動がわかる手掛かりを提示することで、生活に見通しを持つ。
- ・医療的ケアが必要な児童には、登園時に看護師がバイタルチェックや聞き取りを行い、体調を見ながら生理的にも心地よい状態でその日の活動を行えるようにする。

- ・医療的ケアが必要な児童には、看護師や 3 号研修を修了した職員が医療的ケアを実施する。
- ・通所し、同じ流れ（朝のあつまり、設定遊び、昼食、昼寝、入浴など）の中で集団生活を体験し、生活リズムを整えていく（重心児）

【運動・感覚】

- ・事業所内の遊具（すべり台、巧技台、プール、吊り遊具（オーシャンスィング、ポニースィング、ハンモック、ブランコ等）、トランポリン、トンネル、セラピーボール）や公園の大型遊具などの遊びを用いて個々の課題（姿勢の保持・感覚欲求を満たす・感覚の幅を広げる・可動域を広げる・ボディイメージを高める・協調運動を行う・体力をつける・体幹を鍛える・調整機能を養うなど）に応じた運動遊びを行う。
- ・砂・水・紙・粘土など可塑性の高い素材を活用して感触を味わったり、手指の巧緻性を高める。
- ・歌を媒介にしたふれあい遊びを行うことで、体に触れられることへの受容性を高め、身体をほぐす。身体各部の意識性を高める。
- ・五感や固有受容覚、前庭感覚に働きかけ、快の感覚をたっぷり経験する。

感覚運動遊びに使う遊具の一例



【認知・行動】

- ・視覚、聴覚、触覚など個々の特性に配慮して、提示の方法や環境設定を工夫することで子どもからの気づきを促し、外界に働きかけていく力を引き出す。
- ・手順や見通しの理解、選択場面等に視覚情報を有効に活用する。
- ・変化する素材や道具を使用し、実物に触れ実感を伴いながら量、数、大きさ、重さ、色など

の概念形成基礎となる経験を積み重ねる。

- ・必要に応じて発達検査を行い、発達特性を知って支援に生かしていく。
- ・発達段階に応じた玩具を取り入れていくことで因果関係の理解、空間認識力、象徴機能の発達等を促す。



【言語・コミュニケーション】

- ・表情、視線、発声、身振り、行動など子どもの発信しているサインをくみ取り、応えていくことで、表出しているものをより確かなものにしていく。
- ・言葉だけではなく、身振り（ジェスチャー、マカトンサイン、手話など）、指差し、実物、見本を示すなど視覚的な手掛かりを用いながら伝えることで、理解を促し子ども自身の表現手段を広げる
- ・行動のもとにある子どもの思いを代弁して言語化することで、“わかってもらえた”“伝わった”という経験を積み重ね、“もっと伝えたい”という思いを引き出す。
- ・生活や遊びの中でスクリプト（決まった言葉かけ）を意識した声かけをしていくことで、やり取りの中での見通しを持ちやすくする。
- ・子どもにとって興味のあることを題材にしたごっこ遊びを取り入れていくことで物のやり取りや言葉のやりとりを楽しみながら、人と関わり、遊びの世界を共有する。
- ・遊びの中に歌（手遊び、ふれあい遊び、お名前呼びなど）を取り入れ、音楽を媒介にして楽しい雰囲気の中で期待する気持ちを膨らませたり、始まりや終わりをわかりやすくする。ふれあい遊びで身体への心地よいかかわりを通して情動的交流を深めたり、手遊び歌ではサインにつながる手の動きを経験する。

【人間関係・社会性】

- ・少人数のグループで、大人と一緒に遊び合い、安心できる大人との関係性を築く。
- ・少人数のグループで大人が間に入りながらお友だちとの関係をつないでいき、一緒に楽しく遊ぶ経験を積み重ねる。
- ・不安な思い、ありのままの自分を受けとめられることで気持ちを切り替えたり、自分の気持ちをコントロールする力を育む。
- ・ごっこ遊びやルールのある遊びなど、子どもの発達段階に合わせた遊びを展開していくことで社会性の発達を促す。

○家族支援

- ・ 毎回報告の時間を設け、その日の療育のねらいと子どもの様子を映像を用いて説明する。
- ・ 希望に応じて時間を設定し、個別の面談を行う。
- ・ 保護者グループを実施し、家庭や園での様子や悩みの共有や情報交換を行う。
- ・ 必要に応じて家庭や併行通園先を訪問し、事業所以外の場所での姿を知り、通園先との連携を行い、その内容を保護者にフィードバックすることで子どもの姿の共通理解を図る。
- ・ 両親だけでなく、祖父母等も含めた家族を対象にした学習会を行い、支援内容や子どもの様子を知ってもらい、家族の悩みを共有する機会を作る。
- ・ 重症心身障害児に対しては、入浴支援、延長支援（支援時間最長6時間）を行い家族のレスパイトを行う。
- ・ 必要に応じて相談支援事業所や福祉サービスを紹介し、制度や事業の利用に繋いでいく。

○地域支援・地域連携

- ・ 併行通園先を訪問したり、園の担当者に見学に来てもらい情報共有や共通理解を図り、支援にいかす。
- ・ 関係機関（児童福祉センター、保健福祉センター、医療機関、教育機関等）と連携を行う。
- ・ 地域の自立支援協議会の活動に参加し、地域のニーズを捉え、地域全体の福祉の向上、インクルージョンの推進に努める。
- ・ 保育園・幼稚園・事業所の職員を対象にした学習会を定期的（年2回）開催することで、地域全体の支援の質の向上や連携を図る。

○移行支援

- ・ 就園、転園、就学など新たな進路を選択していく際には、適切な情報提供を行い保護者が選択していく際の相談援助を行う。
- ・ 就園、就学の際には引継ぎを行い、支援の経過や発達状況、特性等について情報共有し、継続した支援ができるようにしていく。

○職員の質の向上

- ・ 法令を遵守し、事業を行っていくうえで必要な研修を定期的実施する。
- ・ それぞれの職種に応じた研修に定期的に参加し、専門性を高める。
- ・ 事業所内、法人で研修を企画し、職員間で意見交換をしながら共に学ぶ。

○主な行事等

水遊び（夏季）、クリスマス、苗植え・卒園式（重心・医ケア児対象）